

実践報告

2022年度 総合型地域スポーツクラブへの指導者等派遣委託事業
— 愛知県半田市の事例 —2022 Student instructor dispatch project to comprehensive regional sports clubs
— Case Study of Handa City, Aichi prefecture —山根 真紀¹⁾ 児玉 友¹⁾ 住田 健¹⁾
Maki YAMANE, Yu KODAMA, Ken SUMIDA1) 日本福祉大学 スポーツ科学部
Faculty of Sport Sciences, Nihon Fukushi University

I. はじめに 指導者派遣等委託事業の概要

2000年に文部科学省から「スポーツ振興基本計画」が公表された。この計画は、我が国の社会厚生(国民の幸福度)を向上させる手段として、スポーツが果たす役割に期待が寄せられていると考えられる。実際に、このスポーツ振興基本計画の法的根拠となっているスポーツ基本法を見てみると、スポーツは世界共通の人類の文化であること、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であることが明記されている。このことから、スポーツが単なる身体活動として捉えられているのではなく、国民の幸福度を向上させる社会的役割を担っていると言えよう。

これまで、日本において国民のスポーツとの関わりは学校を中心とする教育機関であり、体育の授業や課外活動(部活動)として行うことが一般的であった。教育機関内でしかスポーツとの関わりを持っていないことは、個人が卒業すると同時にスポーツとの関係が途切れることを意味する。卒業してから運動・スポーツを実施することが思いのほか難しいことは、我々は経験的に知っていると思われる。スポーツ基本法やスポーツ振興基本計画が掲げることを実際に達成していくには、従来の教育機関だけで

はなく、より教育機関の外にスポーツとの関わりを拡げていくことが求められるようになった。その役割を期待され、設立されていったのが総合型地域スポーツクラブ(以下、総合型SCとする)である。

スポーツ庁によれば、「総合型SCは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことができる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで(多世代)、様々なスポーツを愛好する人々が(多種目)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」と説明がなされている。我々の多くが経験したように、これまでのスポーツ実施は学校内の施設で授業と部活動という形で実施されてきた。これは長積(2003)が指摘する隙間だらけのスポーツ振興という問題が付きまとうものであった。長積は、学校という機関でスポーツを実施することは、各学校期内で一つの種目しか行えなくなると指摘した。例えば、ある中学校に通う生徒は、その中学校で部活動として行われているスポーツしか選択することができない。ラグビーをしたいと思ったとしても、その学校にラグビー部がないとラグビーはできない。このような問題に対応できる組織

として総合型 SC は設立された。

社会厚生の上昇のためにスポーツを振興させることを期待されてはじまった総合型 SC ではあるが、はじまった頃（1995年度）から描かれていた青写真のように成長しているとは言えない。愛知県半田市に事務所を構える NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブのように、スポーツを事業として運営（経営）が行えているクラブもあるが、日本の各都道府県にある多くの総合型 SC が課題に直面し、思うように事業を持続できていないのが現状であろう。

しかし、これまでの総合型 SC の在り方を揺るがす問題が日本で起こることになった。中学校部活動の地域移行である。これまで、中学生の運動・スポーツ実施を根幹から支えてきたのは教育機関であるが、少子化による生徒数の減少、教員の働き方改革などによって、これまでのように部活動を支えることが難しくなった。

2018年3月には「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が発表され、中学校の部活動が、「地域、学校、競技種目に応じた多様な形で、最適に実施されることを目指す」と明記された（スポーツ庁、2018）。また、2019年1月の中教審答申では「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」が公表され（文部科学省、2019）、中学校の部活動が学校単位ではなく、地域単位での運営を目指すことが目標として掲げられた。これらの流れを受け、中学校の部活動移行の受け皿として総合型 SC が注目されている。

スポーツ庁（2022）は、中学校の運動部活動移行に対応するため、2021年度より「地域運動部活動推進事業」に取り組むこととなった。その事業では、三領域での推進があげられている。一つ目は、休日の部活動の段階的な地域移行推進である。二つ目は、合理的で効率的な部活動の推進である。三つ目は、生徒にとって望ましい大会の推進である。つまり、これからの総合型 SC には、中学生が単に運動・スポーツを実施する「場」を提供するだけでなく、地域の実情を踏まえた運動・スポーツ活動を実

施する体制の構築（チームの編成方針をたてるなど）、これまで学校の教員が担ってきたスポーツ大会の運営などにも関わっていくことが求められていくようになる。

愛知県半田市は、全国の中でも総合型 SC の育成に力を注いできた自治体ではあるが、市内全ての総合型 SC が軌道に乗っているとは言い難い現状である。中学校の部活動移行において市内の総合型 SC が受け皿となることが期待される中、各総合型 SC の経営資源であるヒト・モノ・カネを充実させることは急務であろう。その中でも、中学校の部活動は教員のマンパワーに大きく依存してきたことは否めない（友添、2023）。部活動と同様に、スポーツクラブが生徒にスポーツを指導する役割が求められる以上、指導者や運営者の質・量は担保されるべきであろう。受け皿となる組織（総合型 SC など）が十分な指導者・運営者を確保できない場合、スポーツを実施したい市内の生徒の行き場がなくなり、彼（女）らが行いたいスポーツや試合の場が提供されない事態に陥ることは容易に想像できよう。そこで半田市内の総合型 SC が、半田市民の社会厚生を向上させるという公益性の強い役割を果たし、今後の部活動移行の受け皿として役割を果たすことができる組織になっていく足がかりとして、日本福祉大学が半田市からの指導者等派遣受託事業に着手することとなった。半田市から委託された業務内容は以下の通りである。

【委託業務概要】

指導者不足や地区別、種目別指導者数の格差等の課題が生じていることから、スポーツクラブに対し、指導者またはスタッフとして学生を派遣し、地域人材の育成や発掘を行うとともに、指導者不足の解消を目指す。また、2023年度以降に実施予定である中学校部活動における地域移行の中でも対応できるような体制を構築する。

そこで本稿の目的は、日本福祉大学が半田市から受託した指導者等派遣委託（以下、学生指導者派遣委託事業）について 2022 年度に実施した内容を詳

細に報告することで、今後の総合型SCの人的資源（指導者・運営者）の確保につながる基礎的資料を得ることである。

II. 学生指導者派遣委託事業のスケジュール

学生指導者派遣委託事業は乙川スポーツクラブ、スポーツクラブ YOUKI, 青山スポーツクラブおよび半田地区スポーツクラブを対象に、各クラブとのヒアリングを経て、以下のスケジュールで進められた（図1）。

- 2022年8月末～9月：

スポーツクラブへの説明とマッチング

【大学】各スポーツクラブに学生指導者派遣委託事業について説明および希望チームの募集依頼

【説明内容】各スポーツクラブ3～4チーム、4回程度、1回2～3時間、指導者1～2名の実施を基準とし、募集は各スポーツクラブに依頼

- 2022年9月末～10月：

【大学】学生指導者募集チラシ作成、説明会の開催、学生指導者派遣のための研修会の開催

【スポーツクラブ】学生指導者派遣委託事業参加希望チームの決定

- 2022年10月末～12月：

各スポーツクラブへ学生指導者派遣の実施

【学生指導者】実施報告書の提出

【大学】学生の指導状況の把握および視察

【終了後】チーム代表者および参加学生への満足度アンケート調査

- 2023年1月25日（水）：
学生指導者派遣委託事業報告会

以下では、上記のスケジュールに基づき、学生募集の方法や作成した資料、研修会開催について、具体的な派遣状況、派遣学生による報告書の作成、終了後アンケート調査の結果等についてまとめた。

III. 学生募集

後期授業の開始とともに、図2の指導者募集パンフレットを主にスポーツ科学部の2～3年生に配布し、呼びかけた。パンフレットには、登録者用のQRコードを掲載し、Google Formsによる希望者情報の収集を行った。具体的には、指導できる種目や現地までの交通手段、保険加入のための生年月日等の回答を求めた。その結果50名余りの学生が登録し、44名の学生が指導者派遣事業に関わった。

学生募集の段階で最も難しかったのは、種目のマッチングである。学生の指導種目は少年野球（8名）、バドミントン（7名）、親子運動教室（7名）、バレーボール（6名）、陸上競技（6名）、チアダンス（3名）、硬式テニス（2名）、ハンドボール（2名）、女子ソフト（1名）、サッカー（1名）、柔道（1名）と多岐にわたっていた。しかし、スポーツ

年	月	総合型地域スポーツクラブ	大学
2022年	8月	●指導者派遣の説明 ●希望チームの募集 ●マッチング	
	9月		●学生募集
	10月	●派遣チームの決定	●10/6 説明会・研修会 ●学生の指導者派遣
	11月		
	12月	●終了後アンケート調査（参加チーム）	●終了後アンケート調査（参加学生）
2023年	1月		●1/25 学生指導者派遣報告会

図1 学生指導者派遣委託事業のスケジュール

クラブと学生の要望とのマッチングが上手くいかず、指導したい種目がないといったことも発生し、学生の希望に添えないこともあった。

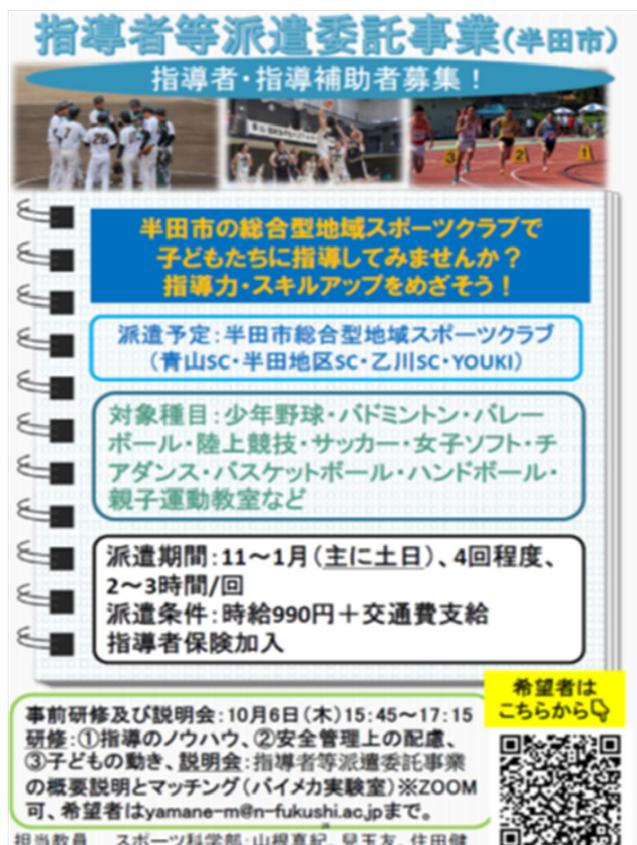


図2 学生指導者派遣のための募集用パンフレット

IV. 指導者派遣研修会の開催

学生を各チームに派遣するにあたり、オリエンテーションを兼ねた研修会を実施した。

実施概要は表1に示した通りで、研修内容の詳細について以下に示した。

①参加の心得について

指導者派遣事業に参加するにあたり、日本のスポーツ振興の必要性や地域スポーツ振興としての総合型SCの役割を理解する。加えて以下のような点を特に学生に強調した。

指導者派遣事業で、受け入れ先が皆さんに求めていることは何でしょうか？皆さんに求められていることは、参加者に運動・スポーツが楽しい、もっとやってみたいと思ってもらえる経験を提供することです。そして、それはスポーツ振興にも繋がるのです。

みなさんが行う指導者派遣は、ただ指導をなんとなく体験するだけのものではありません。参加するみなさんは、ぜひ、生涯スポーツが人々の交流を深め、地域住民の幸福度を高める可能性があることを知ってください。そして、ぜひ、小学生・中学生でのスポーツ体験がその子の将来のスポーツライフに関わっていくその重要性を知ってください。

表1 学生指導者派遣委託事業の参加者研修会概要

概要	
日時	2022年10月27日(木) 12:40~14:00
開催方法	zoomによるオンライン
内容	①参加の心得(総合型地域スポーツクラブについて) ②緊急時の対応、グッドコーチング(ジュニア指導編) ③発育発達期の運動指導 ④連絡事項等
参加者	40名
指導教員	山根・兒玉・住田

②緊急時の対応, グッドコーチング (ジュニア指導編)

本講座では, 暴力・パワハラを起こさないために指導者として身につけるべき基本的な考え方や, 様々なパワハラ事案への対応についてわかりやすく解説したジュニアスポーツ指導者のためのテキスト^{※1}をもとに, 特にグッドプレイヤー, グッドコーチ像, プレイヤーズセンタードなコーチング, ハラスメントのないコーチングについて解説した。

※1 制作協力: スポーツ庁/日本スポーツ協会, 法律監修: 日本スポーツ法学会, 執筆協力: 星野邦夫, 土屋裕睦『実践! グッドコーチング ジュニア指導編』PHP 研究所, 2020

また, 練習中のけがや事故に対する応急処置についても解説した。基本的に, 練習中のけがや事故は「いつ起きてもおかしくない」状況, そのため, AED がどこにあるのかの確認, けがをした時は, すぐにメイン指導者に報告する, これくらい大丈夫と思わずに, 報告・連絡・相談を徹底させた。

応急処置の具体的な内容としては, ①心肺蘇生とAEDの使い方, ②出血している人への対応, ③けがをしている人への対応, について, 資料や動画で説明した。大学ですでに受講している内容も多く, 学生は復習もかねて受講することになった。

実際に指導現場では, ①危険な場所はないか確認する (適切な広さ・環境), ②使用する用具の確認をする, ③環境条件を確認する (暑熱環境下で無理をさせない), ④過度な負担をかけない, ⑤近隣の病院を確認する, の5項目について特に確認することを周知した。

③発育発達期の運動指導

学生が指導する子どもたちは主に小学生である。発育・発達の本質の中にあるその子どもたちの身体的特徴について解説した。

基本的な内容の一つは, 身長伸びと発育発達について, 身長伸びは子どもの成長のバロメーターであり, 子どもたちの成長段階を理解するのに役立つこと, 一方で個人差と性差があることを理解

させた。

二つ目の内容は, 子どもの運動能力を科学的に高めるための考え方である。幼児期・学童初期は上手に動くことを目的とし, 動きの多様化と洗練化をはかる。少年期は, 複数のスポーツ種目を経験し, 思春期以降は, 筋力や持久力を身につけさせる。したがって, スポーツの専門化は, 思春期後期以降まで遅らせることがケガや心理的ストレスのリスクを最小限に抑えられることを説明した。何よりも, 子どもたちが運動やスポーツが大好きになるような指導をするよう, 学生の理解を求めた。

④その他

研修会の最後には, 各種目でリーダーを決定し, 場所・担当者・参加者の情報等を共有した。また, 研修会当日, 欠席した学生には研修会の録画を視聴するよう指示した。

V. 派遣状況

総合型SCに学生指導者派遣委託事業への参加を募ったところ, 乙川スポーツクラブは8チーム, スポーツクラブYOUKIは3チーム, 青山スポーツクラブは3チーム, 半田地区スポーツクラブは1チームの希望があった。合計で15チームに学生を指導者として派遣することになった。

スポーツクラブごとに, 派遣日程等を表2に記載した。各チーム最大4回になるように調整した。半田地区スポーツクラブは1チームしか希望がなかったため, 回数が多くなっている。室内競技は初めに決めた日程でスムーズに進んだが, 屋外競技は雨天の場合は中止連絡や追加日程の調整などがあり, ひと手間かかった。

学生指導者派遣委託事業に参加した各スポーツクラブのチームには事前に連絡あるいは訪問させていただき, 具体的な実施方法について確認し, 学生と共有した。指導者派遣実施中のスケジュール変更や, 学生の欠席等の連絡はLINEグループを作成し各チームの代表者もメンバーになっていただくことで, スムーズに実施できた。

学生の指導者派遣において, いくつか問題があっ

た。まず実施曜日である。原則土日に実施することとしていたが、月曜日や水曜日に行くこともあった。そのため、学生の授業や交通手段等の都合で、対応できたりできなかったりした。また、現地までの交通手段も頭を悩ませる問題だった。駅から15～20分程度の距離は学生は許容してくれたが、それ以上は徒歩では難しかった。そのため学生指導者の中で、自家用車を保有している学生を配置した

り、担当教員が送迎をしたりしてなんとか乗り切った。自家用車での移動も保険対応にはしていたが、何かあったときの対応は今後の課題となった。

VI. 学生指導者派遣委託事業の報告書作成

各チームは、実施日ごとに実施報告書を作成した。報告書には、実施したプログラム内容や参加者の様子、工夫した点や課題などを記載した。可能な

表2 学生指導者派遣日程

●乙川スポーツクラブ

種目	チーム名	曜日	開始時間	場所	派遣日
少年野球	乙川SC横川	土	10:00～	横川小グラウンド	12/3
少年野球	乙川クラブ	土	10:00～	乙川小グラウンド	11/26 12/3
少年野球	乙川東クラブ	日	14:00～	乙川東小グラウンド	11/18
チアダンス	キッズチアダンス	月	16:00～	ニコパル	11/7 11/14 12/5 12/12
バドミントン	乙川エール	月	19:00～	乙川中体育館	11/14 11/28 12/5 12/12
陸上競技	ハシローズ	日	14:00～	乙川小グラウンド	11/6 11/13 11/20 12/4
サッカー	半田SC	土	9:00～12:00	上浜グラウンド	11/5 11/12 12/3 12/10
ソフトボール	フェニーズ	日	12:00～	乙川東小グラウンド	11/6 12/4
		土	9:10～17:00	乙川東小グラウンド	12/10

●スポーツクラブYOUKI

種目	チーム名	曜日	開始時間	場所	派遣日
陸上競技	陸上クラブ	日	9:00～12:00	有脇小グラウンド	11/13 11/20 12/4
硬式テニス	ヘアーズ	日	9:00～12:00	亀崎中テニスコート	11/13 11/27 12/4 12/11
柔道	NGSA亀崎	土	19:00～20:30	亀崎中武道場	11/12 11/19 12/10
	柔道会	水	19:00～20:30	亀崎中武道場	11/30

●青山スポーツクラブ

種目	チーム名	曜日	開始時間	場所	派遣日
バドミントン		日	13:00～17:00	花園小体育館	11/13 11/27 12/4 12/11
ハンドボール		土	9:00～12:00	花園小体育館	12/3 12/10
バレーボール		土	9:00～12:00	板山小体育館	11/5 11/13 11/19 12/17

●半田地区スポーツクラブ

種目	チーム名	曜日	開始時間	場所	派遣日
親子体操教室		土	9:30～12:00	半田小体育館	10/22 11/12 11/19 11/26 12/3 12/10 12/17

限り記録を写真に残し、教室の様子が共有できるようにした(図3)。

報告書は Google スプレッドシートで作成し、ど

のデバイスでもオンラインでリアルタイムに共同編集できるようにすることで、学生間、教員間での共有性を高めた。

チアダンス実施報告書(例)

【種目名】	チアダンス	
【場所】	ニコパル多目的ホール	
【時間】	月 16:00~18:00	
【対象者・人数】	幼児・小学生 各25人	
【持ち物】	学部Tシャツ・シューズ	

派遣日① 11/7

実施内容：16:00～（保育園児）ストレッチ→準備運動(動物の真似)→振り付け

留意点：沢山走り回るので転んだりぶつかったり、舞台上に登ったりしないか注意する。

17:00～（小学校2年生以上）準備運動(動物の真似)→ストレッチ→ジャンプの練習(馬跳びなど)→振り付け 基本的には参加して出来ていないところを補助する

ふりかえり：保育園生はよく動き回るため、怪我等に注意。小学生クラスは保育園生に比べて落ち着いているが、個々で喋りだしたりしがち。そのため、先生の話を書くように促す。両クラスともできていないことに対して教えて、先生が進める内容に対して補助を行った。子どもたちが緊張していつも通りできない可能性があるため、無理に関わろうとせず、一緒に参加しながら補助をしていくよう意識する。

派遣日② 11/14

実施内容：16:00～（保育園児）真似っこ運動→ストレッチ→振付 一緒に運動を行う。前回に聞き続き、できていない子どもに教える。

17:00～（小学校2年生以上）真似っこ運動→ストレッチ→振付 振りを一緒に行ったり、先生のお話を聞いてない子どもなどに注意を促す。

ふりかえり：保育園クラスでは自由に動き回るので、注意して先生の言う事をしっかり聞くように促す必要があったと感じた。

小学生クラスは保育園クラスより落ち着いているが、先生のお話を聞かずに友達とお話していることが多くみられる。そのため、優しく声掛けして一緒に運動を行うようにさせる工夫が必要。

派遣日③ 12/5

実施内容：16:00～（保育園児）準備運動→動物の真似っこ運動→振付 注意散漫な子に対して注意を促す。

17:00～（小学校2年生以上）準備運動→動物の真似っこ運動→振付 先生が教えているグループ以外の子どもの振りの確認を行う。

ふりかえり：保育園クラスは先生が教えている間にどこかへ行ってしまふ子どもをしっかりと見ておく。だんだん慣れてきて、一緒に真似っこ運動などすると、丁寧に動作をしてくれた。また、言葉で言うだけでなく、一緒に動くことが大切だと感じた。小学生クラスで振りの確認をした際に、どう進めればいいのか困ったため、ポイントを押さえた指導をすることが重要だと感じた。

図3 実施報告書(例)

VII. 終了後アンケート

各チームの代表者及び参加した学生に指導者派遣に関するアンケート調査を実施した。その結果15チーム（回答率100%）の代表者、42名の学生（回答率95.5%）から回答を得た。表3にスポーツクラブ別の学生派遣状況を示した（派遣状況は事前に把握可能であったため、未回答2名の学生データも含んでいる）。乙川スポーツクラブは8チーム、スポーツクラブYOUKIと青山スポーツクラブは各3チーム、半田地区スポーツクラブは1チーム、合計15チーム、11種目に学生を派遣した。指導対象はほとんどが小学生で、派遣回数には3～4回が15チーム中10チームを占めた。各チームへの派遣人数は、1～3名程度で、派遣を希望する学生が多いバドミントンやバレーボールおよび親子体操はローテーションで派遣する学生を割りふった。

各チームの代表者による学生指導についての評価は次のような結果であった。「学生の態度、指導は適切でしたか」は、93%（14チーム）が「適切」と回答したが、「もう少し子ども達に寄り添って欲しい」「携帯みながらではなく自分のことばにして指導して欲しかったが、自分達の個性を出そうととても頑張ってくれていたと思います」というコメントが寄せられた。また、学生指導者派遣委託事業の全体的満足度は「とても満足している」「満足している」を合わせると80%を占めた（図4）。また、今後の本事業の利用については93%が「希望する」と回答した（図5）。

以上のように派遣チームの代表者からは概ね好評であったが、派遣回数が少なかったため、継続的に実施してほしいという要望が多かった。

派遣された学生のアンケート結果を表4と5に

表3 スポーツクラブ別学生指導者派遣状況

n=44					
SC	チーム名	種目	対象	派遣回数	派遣人数
SC YOUKI	陸上クラブ	陸上競技	小・中学生	4	3
	NGSA亀崎柔道会	柔道	小学生	4	1
	ベアーズ	硬式テニス	小～一般	4	2
	合計	3チーム		12	6
乙川ISC	ハシローズ	陸上競技	小学生	3	3
	乙川クラブ	少年野球	小学生	2	3
	横川クラブ	少年野球	小学生	1	2
	乙川東クラブ	少年野球	小学生	1	3
	乙川エール	バドミントン	小学生	4	4
	キッズチアダンス	チアダンス	小学生	4	3
	半田フェニース	女子ソフト	小学生	3	1
	半田サッカークラブ	サッカー	小学生	4	1
合計	8チーム		22	20	
青山SC	ハンドボール	ハンドボール	小学生	2	2
	板山JV	バレーボール	小学生	4	6
	Jr.バドミントン	バドミントン	小学生	4	3
	合計	3チーム		10	11
半田地区 SC	親子体操教室	体操	幼児・親	7	7
合計	1チーム		7	7	

示した。指導に関しては83%の学生が適切にできたと回答したが、適切でなかった理由として、「作成してきたプログラムができなくて、サポートしかできなかった」「小学生を対象に指導を行ったが、彼らの身体面と精神面をもう少し考え、予測して練習メニューを考えるべきであった」「声が小さい部分があったり、伝え方が難しくなっていた部分があった」「勉強不足でした」といった指導力や知識不足が挙げられた。

また、本事業に対する総合的な満足度は概ね高い評価で、次のような感想が述べられた。まず10名ほどの学生が報告していたが、「自分が学んだことを教えたり、派遣先の指導者から学んだり、普段関わることのない小学生とコミュニケーションを取

たりと、とてもよい経験ができた」というものであった。一方で、「事前に指導者と指導内容や確認すべき事などがらなどについて打ち合わせをしたり、学生同士の顔合わせをしたりしたほうがよい」という意見も8名の学生が述べた。また、「指導回数が少ないので増やしたほうがよい」という意見もみられた。

以上のことから、学生からも各チーム代表者と同様に指導回数が少ないことが指摘されていたため、継続実施に向けた具体的な方策を検討して行く必要がある。加えて、事前に派遣先の指導者とコミュニケーションを取る機会を設ける、指導対象の理解を深める勉強会の開催などを次年度に向けて検討していきたい。

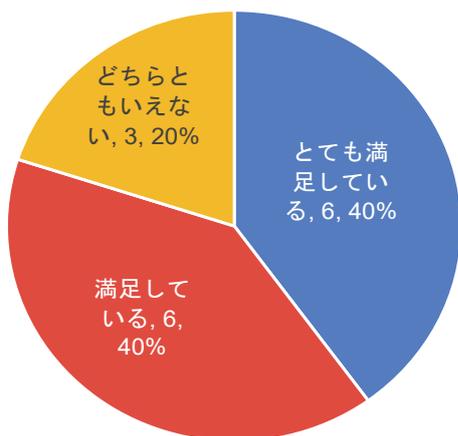


図4 各チーム代表による学生指導者派遣委託事業の全体的な満足度

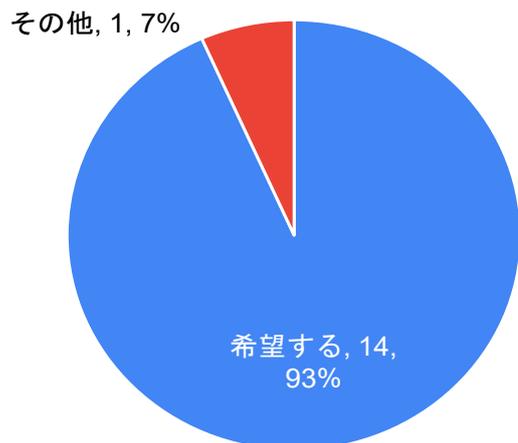


図5 今後も学生指導者派遣委託事業の利用を希望するか

表4 派遣学生の指導状況について

n=42		
●子どもたちに適切な指導ができましたか	人数	%
適切にできた	35	83.3
やや不適切	5	11.9
どちらともいえない	2	4.8
●子どもたちとコミュニケーションをとれましたか		
適切にできた	32	76.2
だいたいできた	10	23.8

表5 派遣学生の満足度と来年度の参加希望

n=42		
●学生指導者派遣事業の全体的な満足度	人数	%
とても満足している	25	59.5
満足している	14	33.3
どちらともいえない	3	7.1
●来年度もこの事業に参加できますか		
参加できる	19	45.2
参加できない	10	23.8
未定	13	31.0

VIII. 指導者派遣報告会の開催

2023年1月25日(水)、指導者派遣全体報告会をオンライン(Zoom)で開催した。報告会の主な内容は、①各競技種目からの発表、②指導者派遣終了後のアンケート結果について、③次年度の予定等についてであった。30名の学生が参加し、各競技種目(陸上、バドミントン、ハンドボール、女子ソフトボール、野球、親子運動教室、柔道、テニス、サッカー、バレーボール、チアダンス)それぞれ5分程度の発表を行った(図6)。各競技種目5分程度と短い発表時間だったが、全体の流れ、実施内

容、工夫した点や課題などを共有することができて良かったといった声が多かった。指導補助ではなく実際にプログラムを考案し、指導を行った競技種目が多くみられた。課題として、年齢や発達段階等に応じた指導方法やコミュニケーションについて挙げられていたことから、次年度の研修会で取り入れていきたい。また、可能な限り現場の指導者にも参加していただき、学生の指導に対する助言や交流等の時間を取り入れたい。

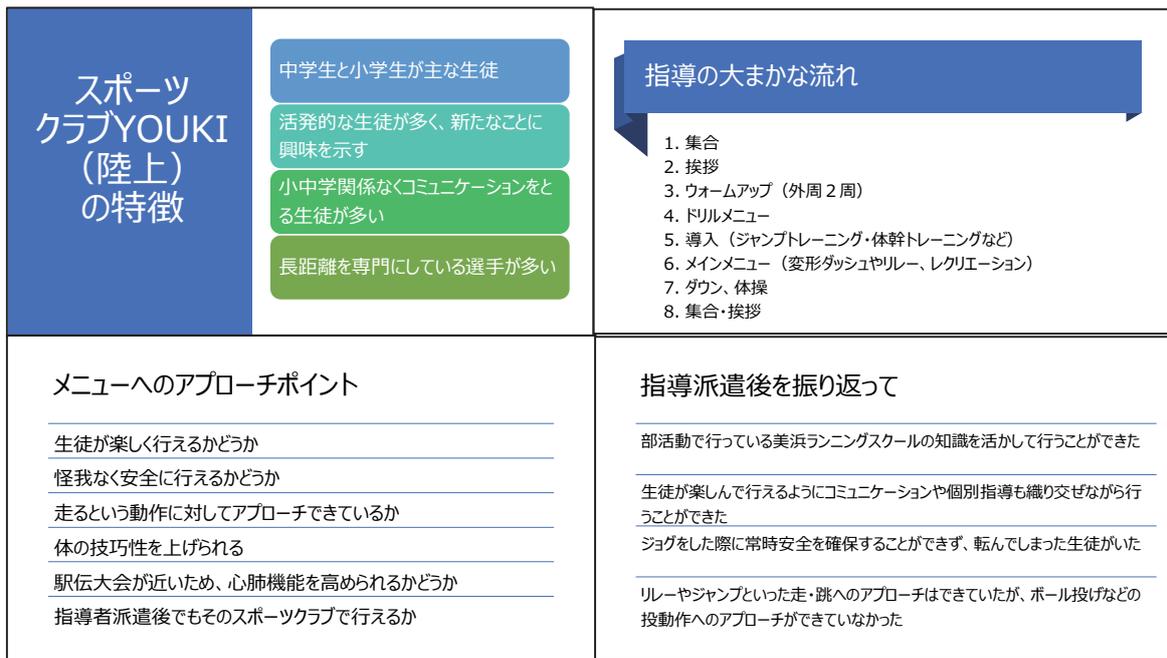


図6 報告会の発表内容(スポーツクラブ YOUKI 陸上クラブ)

IX. 次年度に向けて

①乙川スポーツクラブ

会員数 1800 名を有し、2021 年 10 月に一般社団法人「乙川スポーツクラブ」となり、待望の法人格を取得した。その乙川スポーツクラブの課題は「後継者づくり」と「財源確保」である。現在スポーツクラブの核として運営に携わっている方々は、スポーツクラブ設立当初からの役員で、高齢化が進んでいるため、後継者の養成が急務ということである。そのためには、現状のようにほぼボランティアでは、やってくれる人を発掘できないため、一定の謝礼を払って関わっていただくことを考えてはいるが、先立つ資金がない。財源確保の方法について、合理的な手段で例えば会費の値上げ、助成金を受ける、新たな収益性の高いイベントの企画などがあげられるため、次年度では、具体的な形にできないか、一緒に議論していく予定である。

指導者派遣は多くのチームに派遣できたが、予算の関係で実施回数が少なくなってしまった。次年度以降は、継続的、長期的に実施できるように計画していく予定である。

②スポーツクラブ YOUKI

事務長が退任したり、資格を持った事務局員がいなかったりと運営基盤が不安定であることや、会員数が少ないため収入が少なく、他のクラブよりも財源が乏しい状況にある。したがって会員を増やすための方策について検討していくことが、今後の優先課題である。そのために、中学生を会員に取り込むために中学校との関係作りを進めていくことが必要である。また、アシスタントマネージャーやクラブマネージャーを育成していく必要がある。クラブマネージャー設置支援事業（法人格不要）、クラブマネージャー設置事業（法人格必要）もあるため、まずはクラブマネージャーの資格取得から勧めたい。

指導者派遣について、今回は 3 チームに学生を派遣した。もともと YOUKI は子ども対象のチームよりサークル活動として大人も含めて実施しているチームが多いため、希望チームが少なかったと思われる。次年度以降についての対応は、事務局や理事

と検討して進めたい。

③青山スポーツクラブ

理事長が「現状維持をさせることが当面の課題」と述べるように、クラブの事業を安定させることに注力をする必要があると考えられる。しかし、ハンドボールなどの種目では会員を獲得できており、活動内容も他クラブに誇れるものである。今後は、会員や会費を増やすための施策について考えていくことが求められるが、ハンドボールなどのようにクラブの強みとなっている事業の強化が有効な手段であるかもしれない。そのためには、自組織の体制強化は必要であり、アシスタントマネージャーやクラブマネージャーを所有する人材の獲得、または育成をしていく必要もあるだろう。

指導者派遣について、今回は 3 チームに学生を派遣した。他のクラブと同様、回数が少なかったため、十分な成果が得られなかったことが課題として挙げられ、次年度以降は指導学生数は少なくとも構わないので、長期的に実施できるよう計画してほしいという要望があった。

④半田地区スポーツクラブ

主なクラブの課題は、クラブの持続可能な運営体制の構築、核になる人材育成、指導者の確保である。2023 年度は、5 月下旬を目度に、持続可能な運営体制・基盤強化を目的とした講師を招いての勉強会（愛知県スポーツ協会山田瞳クラブアドバイザーを予定）を予定している。また、クラブマネージャー資格を 1 名取得予定である。親子運動教室事業の指導スタッフとして、5 月～通年で本学学生を 2 名ずつ派遣する。本事業の予算で不足する人件費は、クラブが支払うこととしている。学生は 10 名程度を募集し、ローテーションで現場を担当する。

X. まとめ

半田市からの受託事業として、総合型 SC への学生指導者派遣委託事業を展開した。その結果、乙川スポーツクラブ、スポーツクラブ YOUKI、青山スポーツクラブおよび半田地区スポーツクラブの4クラブ15チームに対し44名の学生を派遣することができた。

学生指導者を派遣するにあたり、各スポーツクラブには事業の説明と希望するチームの募集を依頼した。学生を派遣する大学側は、学生募集、事業の説明、希望する学生のマッチングを行うとともに、研修会を実施し指導者として派遣する学生の教育を行った。

その結果、派遣したチームの代表者から高い評価と満足度を得ることができた。学生からも、子どもたちとコミュニケーションをとったり、指導したりと普段できない貴重な経験ができたこと満足度が高かった。一方で、派遣回数が少なかつたため十分な指導ができなかつた、もっと子どもたちと係わっていきたかつたという意見も多く、次年度に向け、継続的、長期間実施できるよう検討していきたい。合わせて、学生への事前研修を充実させること、指導者と学生の事前打ち合わせや学生同士の話し合いといったよりきめの細かい関係作りが必要であることが明らかとなつた。

本実践報告は、半田市に提出した「2022年度指導者等派遣委託」の業務報告書の一部を追加・修正しまとめたものである。

参考文献

- 文部科学省(2019)「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985.htm, (2023.10.2 入手)
- 長積仁(2003)「スポーツ産業論入門(第3版)」杏林書院, 75-89.
- スポーツ庁(2018)「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/1402678.htm. (2023.10.2 入手)
- スポーツ庁(2022)第128回教育課程部会資料2-1「運動部活動の地域移行について」.chrome-extension://efaid-nbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/content/20220727-mxt_kyoiku02-000023590_2-1.pdf. (2023.10.2 入手)
- 友添秀則(2023)「運動部活動から地域スポーツクラブ活動へー新しいブカツのビジョンとミッション」大修館, 2-15.